

れんげい NEWS

Vol.26

発行日：2024年11月



心房細動の新しいカテーテルアブレーション (パルスフィールドアブレーション) を12月から開始します。

北海道医療センター 循環器内科医長
佐藤 実

連携医療機関の皆様方には、平素より当院へ格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

北海道医療センターは、救命救急センターを中心に3次をはじめとした救命・救急に備えています。ご承知のように循環器救急疾患は、より早い、より適切な対応が求められます。循環器内科では、通常外来はもちろんのこと365日24時間体制を敷き、加えて心臓血管外科の先生方にもご協力頂き、あらゆる心臓・血管病に対応しています。

札幌市ACSネットワークに参画し、休日・時間外も循環器専門医師が対応しています。循環器救急の適応と思われる患者様がおられましたら、お気軽にご連絡ください。各医療機関には循環器ホットライン専用ダイヤルをご連絡させていただいております。近年は心房細動に対するカテーテルアブレーション治療が増えており、当院でも行っています。心房細動の治療部位を正確かつ早く把握するため、最新の3次元マッピングシステムを導入しています。治療には、従来の高周波カテーテルアブレーションシステムの他に、新たにクライオアブレーションシステムを導入し、心房細動をより短時間で効果的に治療するようにしています。

2024年12月からは、パルスフィールドアブレーションを採用します。

従来のアブレーションと比較して、パルスフィールドアブレーションには合併症の低減と手技時間の短縮が期待されています。

スタッフ一同より一層の努力を重ね、それぞれの患者様に最適な治療を提供いたします。患者さんのご紹介をおねがいたします。

まいにちから、まんいちまで。



独立行政法人 国立病院機構

北海道医療センター

心房細動の新しいカテーテルアブレーション (パルスフィールドアブレーション)

心房細動アブレーションは、その原因となる部位（肺静脈）を焼灼して心房細動を治療する方法です。

従来の心房細動アブレーションには、加熱をして治療する高周波アブレーション・ホットバルーンアブレーション・レーザーバルーンアブレーションと、冷却をして治療するクライオバルーンアブレーションとがあります。

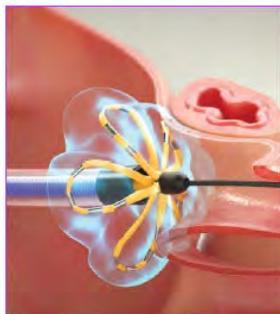
いずれの方法も熱を用いた治療であるため、心臓周囲の臓器（食道や横隔神経）に障害が及んでしまうことが少なからずあり、これが治療の限界ともなっておりました。

一方、パルスフィールドアブレーションは、カテーテル先端から短時間の周期で高電場（パルスフィールド）を発生させることにより、心筋細胞の細胞膜に小さな穴を生じさせ、細胞死を誘導する方法です。

この方法では、心筋細胞に特異的な電場を発生させることで、心筋細胞のみを治療することができることや、熱を発生させない治療法であることから、周囲の臓器に影響を与えることなく、心房細動を治療することが可能となりました。

従来のアブレーションと比較して、パルスフィールドアブレーションには合併症の低減と手技時間の短縮が期待されています。

文責 北海道医療センター 循環器内科医長 佐藤実

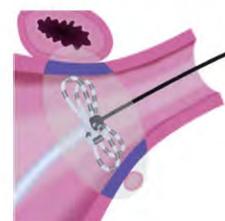


短時間に電圧をかけ
パルス電界を形成



熱アブレーション(RF/Cryo)

全ての組織に対して無差別に損傷を与える為、近接する横隔神経や食道などの組織も潜在的に損傷を受ける可能性



パルスフィールドアブレーション (PFA)

心筋組織に選択的に影響を及ぼし、近接組織への影響を避けることが期待される

© 2024 Boston Scientific Corporation. All rights reserved

北海道医療センター循環器科医師紹介



循環器内科医長 佐藤 実
専門分野
循環器病学全般、不整脈
カテーテル・アブレーション



循環器内科医長 藤田 雅章
専門分野
循環器病学全般
冠動脈インターベージョン



循環器内科医師 本間 恒章
専門分野
循環器病学全般、不整脈
冠動脈インターベージョン



循環器内科医師 大津 圭介
専門分野
循環器病学全般



循環器内科医師 加藤 瑞季
専門分野
循環器病学全般



循環器内科医師 高橋 雅之
専門分野
循環器病学全般、不整脈



循環器内科医師 山梨 克真
専門分野
循環器病学全般



循環器内科医師 細口 翔平
専門分野
循環器病学全般



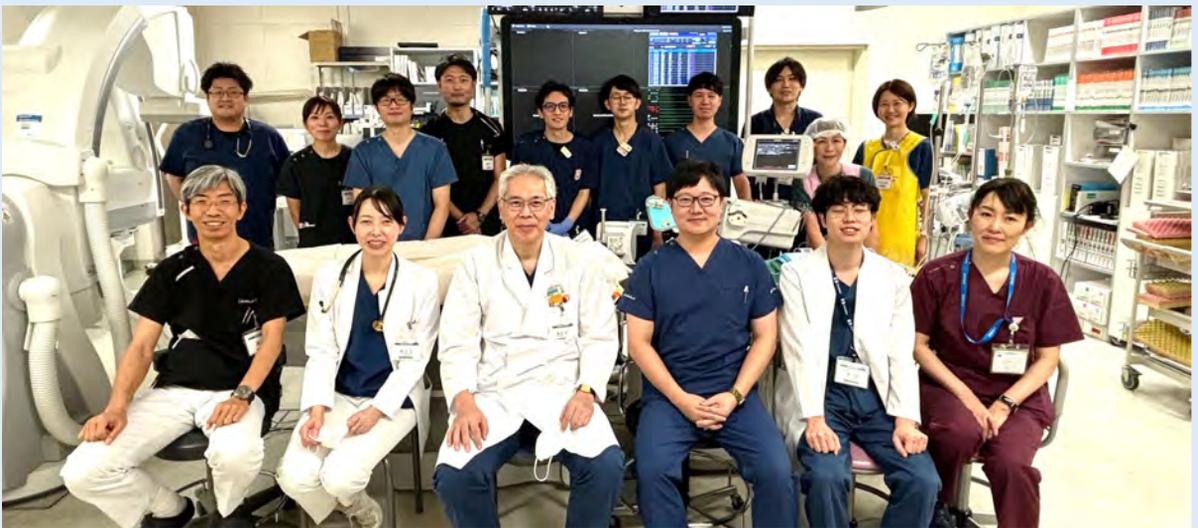
循環器内科シニア医師竹中 孝
専門分野
循環器病学全般
冠動脈インターベージョン

北海道医療センターカテ室チーム

カテ室チームは、医師、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士、放射線技師で構成されており、日々カテーテル業務に関わっています。

術前には全職種スタッフが集まり、各職種より意見を出し合い、一例ずつ打ち合わせを行っています。全スタッフが患者さんの情報を共有することにより、“安全かつ正確な検査・治療”が実現できると考えています。

心臓カテーテル室で安全かつ正確な治療を行い、より快適な環境で皆様に検査や治療を受けて頂けるように、これからも引き続き努力してまいります。



国立病院機構 北海道医療センター ホットライン

☆ **脳卒中ホットライン** **070-6956-8428**
※脳卒中を疑われる患者に関しては、脳神経外科救急担当Drが直接対応します。

☆ **循環器疾患ホットライン** **070-6956-8429**
※循環器疾患が疑われる患者に関しては、循環器担当Drが直接対応します。

☆ **Dr. to Dr.** **011-611-8111 (代表)**
※該当の診療科をお伝えください。科の担当Drが対応します。

～医療機器共同利用のお知らせ～

北海道医療センター地域医療画像連携システム

▲三角山メディネット▲

(Web検査予約サービス)

- 連携医療機関側の負担はありません。
- 検査紹介元である連携医療機関側に必要な設備は、インターネット回線とパソコンもしくはタブレットのみです。
- 検査後の画像データ、読影レポートは即時オンライン公開され、ダウンロード可能です。

連携医療機関様の操作もかんたん



①検査機器選択

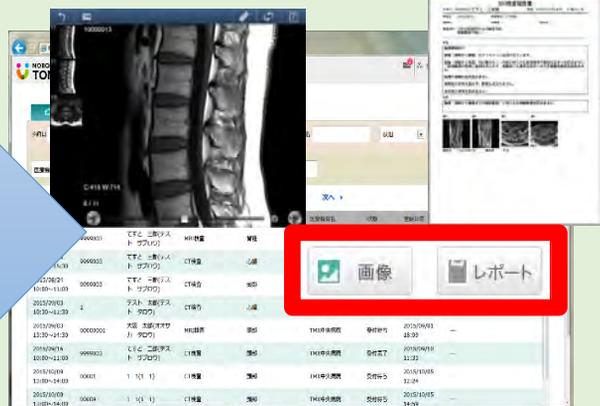


②予約日付カレンダー選択



③患者様情報、依頼情報記入欄

検査がおわると



三角山メディネットのお申込み・お問い合わせ・
地域医療連携室（齋藤）まで
☎011-611-8116（地域医療連携室直通）

独立行政法人国立病院機構 北海道医療センター地域医療連携室スタッフ

北海道医療センター地域医療連携室は以下のメンバーを中心に運営しております。

院長：伊東 学、地域医療連携室長：新野 正明、地域医療連携室副室長（看護部長）：有馬 祐子

地域医療連携係：齋藤 啓輔、地域医療連携室副看護部長：鈴木 かおり、主任医療社会事業専門員：濱口 晃郎

TEL：011-611-8116（連携室直通）、011-611-8111（代表）、FAX：011-611-8112（連携室直通）

ホームページ：<http://Hokkaido-mc.hosp.go.jp/area/index.html>

